

木曜日に人生が変わる人々

文 伊藤公一

text by Kouichi Ito

新型コロナウイルス禍、気になったニュースに対して所感を述べる。

日本全体が3密を避け我慢しているなか、法務・検察当局で検事総長に次ぐナンバー2の黒川弘務・東京高検検事長が馴染みの新聞記者たちと、賭け麻雀に興じ辞任となった。検察幹部の定年を延長できる検察庁法改正案を巡る議論が続くさなかの辞任劇。将来の総長候補ともされた実力者の突然の退場に、日本中で驚きと怒りが広がった。

総理大臣が「余人をもつて代えがたい」とまで頼りにしていた人物としては、極めて、おそまつな幕引きではある。その報道番組のなか、新聞記者あがりのコメンテーターは、現役時代に、有力者からの情報収集において麻雀の付き合いは不可欠であったと述べる。

そこで今回の一件。確かに法律違反ではあるが、昔も今も、大人が金銭を賭けないで麻雀をすることなど存在するのであるうか。

同番組で司会を務める芸人が、黒川検事長の完璧な学歴と職歴を紹介したうえで、「高卒の自分がやってはいけないと分かることを、何故にエリートがしたのか」と興奮していたのも印象に残った。

小生、黒川氏のことを好きでも嫌いでもないが、自分に全く影響のない役

柄の人と考えれば、全くスキのない秀才よりも、麻雀だけは休めない人間のほうが、何だか茶目っ気があって安心する。

人気アイドル・手越祐也が、ジャニーズ事務所からの自粛命令を破り、何度も合コンで外出。それが原因で芸能活動の無期限休止処分が通達された。

フォーリーブスの時代から馴染みのあるジャニーズタレント。いつの間にか、お茶の間の人気者アイドルを通り越して、社会的影響力を有する集団や個となってしまったゆえ、大人としての責任感が求められるのであるうか、その処分には厳しすぎる感を持つ。

黒川さん同様、手越とも友だちではないが、芸能人は一般人よりも奔放で、不良っぽくあつた方が好ましい。

アイドルに、お行儀の良さは勿論のこと、最近では学歴や知性も求められているが、慶應大学卒業生がニュースキャスターを務めている場面の方に違和感を持つ自分は、ひねくれ者であろうか。今回のニュースで知り得たが、手越祐也は地道なボランティア活動を行う善人なようだ。

女性にもてるのは当たり前であろう。犯罪でもないのに可哀そうすぎる。

同じく、もて男。好感度芸人・渡部健の私生活。こちらも法律を犯してい

るわけではないが、同調も同情もできない。以上の3人。いずれも木曜日に人生が変わっている。恐るべき、週刊文春！

Profile

1958年生まれ。伊藤病院3代目院長。北里大学医学部卒業、東京女子医科大学大学院修了。医師になって以来、国内外にて一貫してバセドウ病、橋本病、甲状腺癌など甲状腺疾患に対する診療と研究にひたすら従事。東京女子医大、筑波大大学院非常勤講師。日本医科大学、了徳大学客員教授。日本内分泌外科学会、日本甲状腺外科学会理事。厚生労働省診断群分類調査研究班班長。伊藤病院 <http://www.ito-hospital.jp/> 名古屋甲状腺診療所（名古屋分院）<http://www.kojin-kai.jp/nagoya/> さっぽろ甲状腺診療所（札幌分院）<http://www.kojin-kai.jp/sapporo/>

